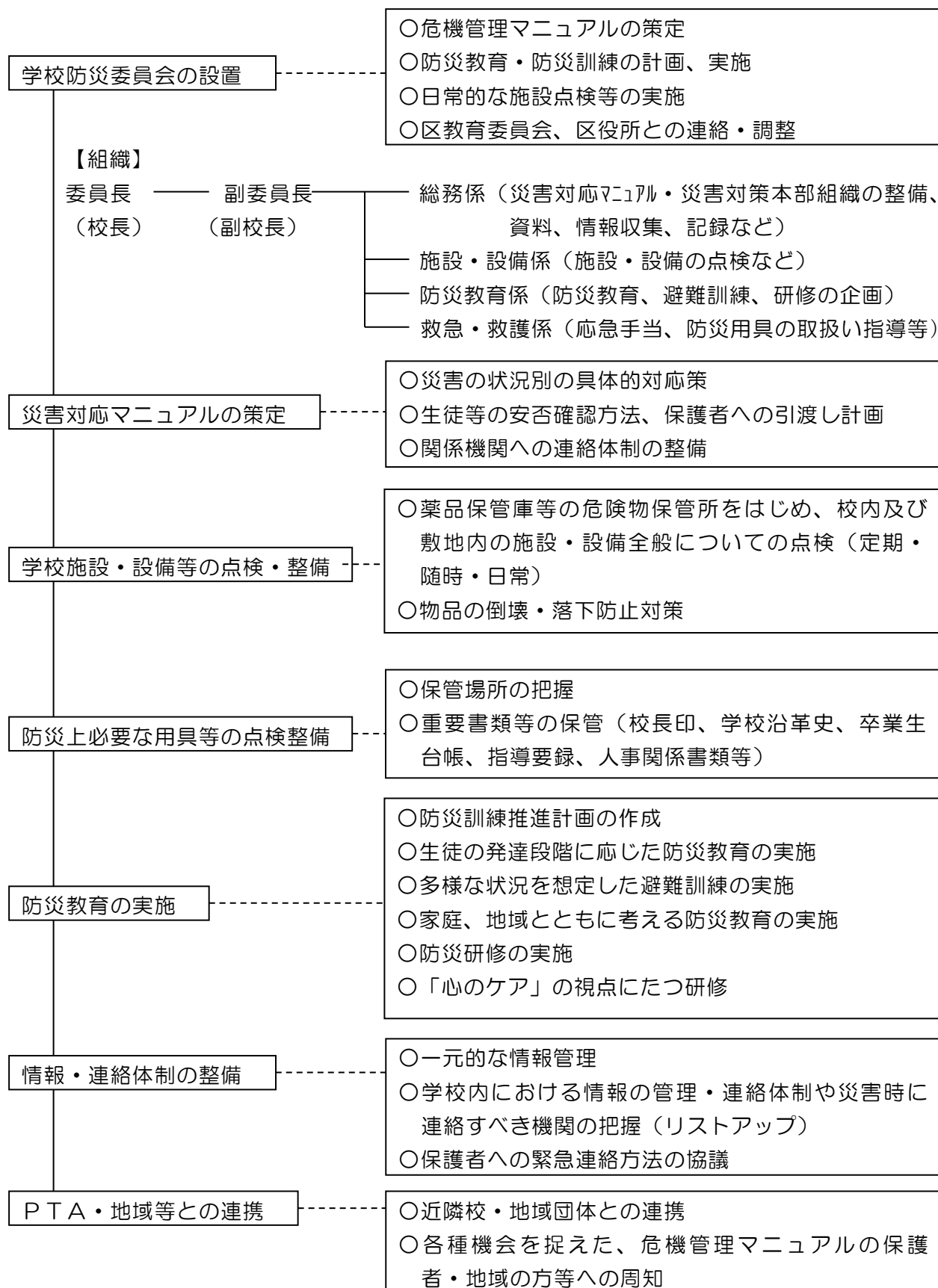
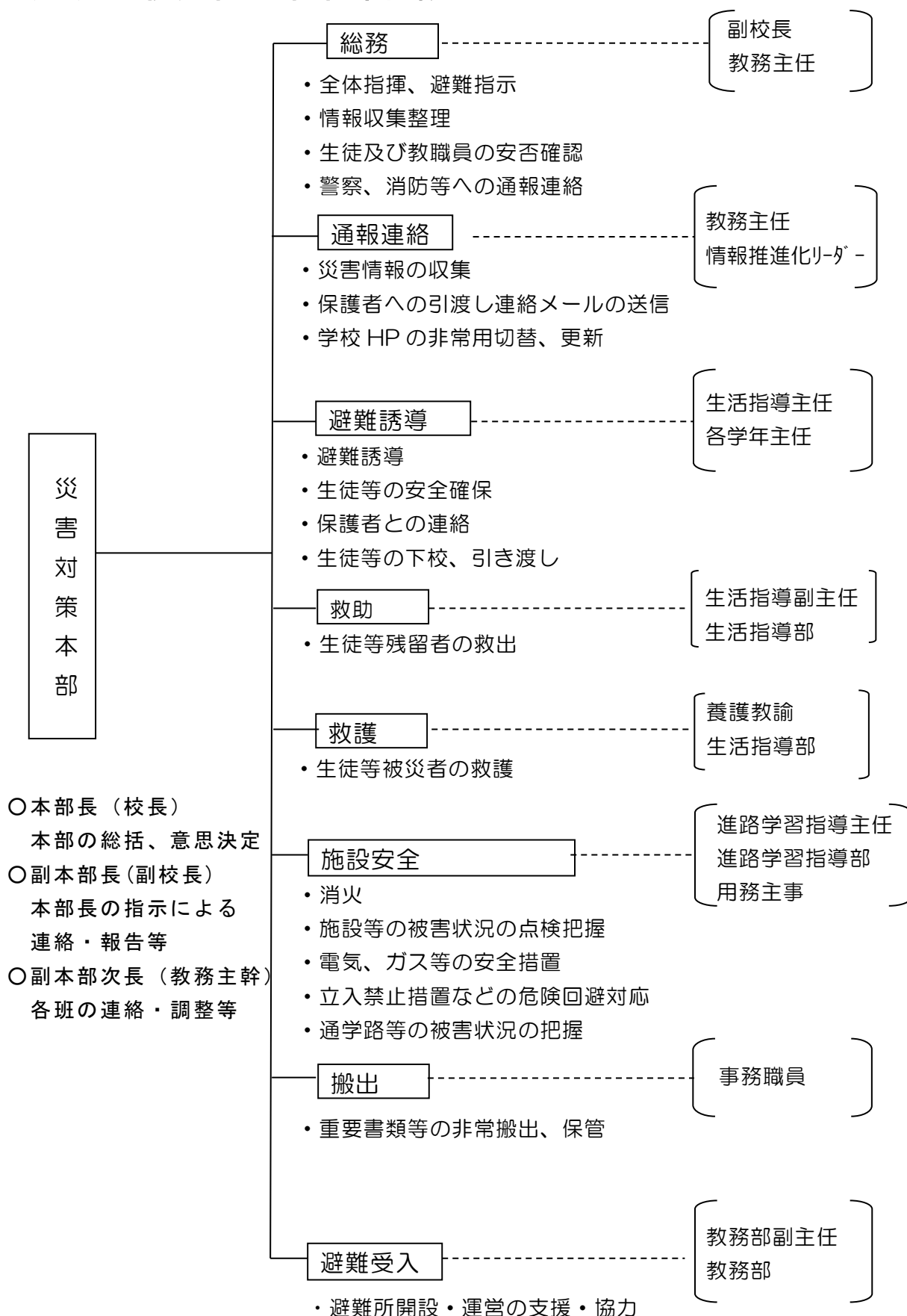


(1) 日常的な学校防災活動



(2) 学校災害対策本部組織



(3) 現状及びリスクの把握

本校は、江戸川区の東に位置している。

校舎は、昭和51年に建設されたもので、平成17年に耐震工事が完了している。校舎東側と西側は住宅密集地。南側には商店街がある。そのため、地震後の火災の有無を確認したうえで、下校指示を出す必要がある。近隣が住宅密集地であること、またバス停も近いことから、避難所開設の際は、多くの避難者が来校することが予想される。

学校の現状（令和7年4月1日現在）

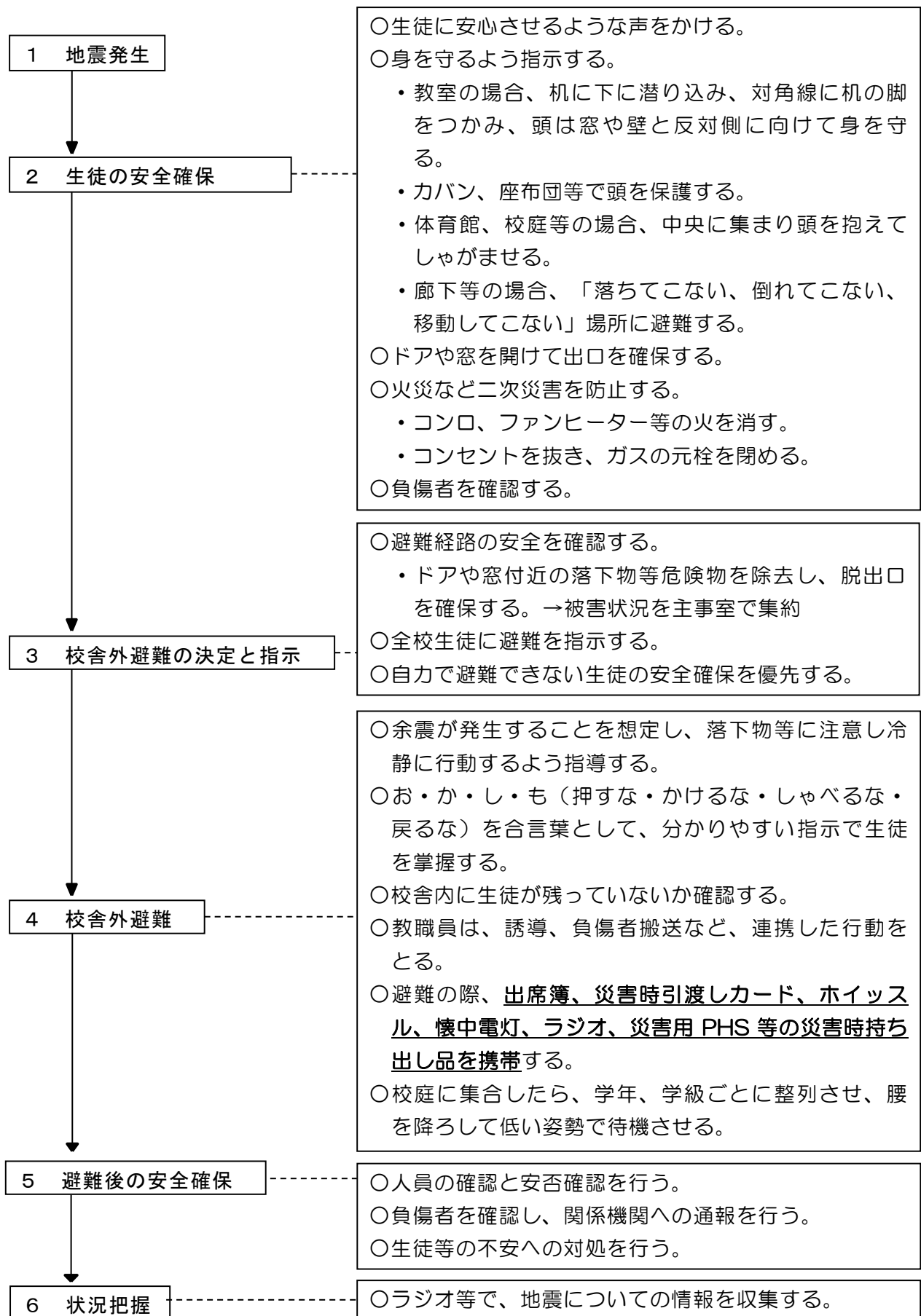
生徒数		教職員数
4 3 2 名		
第 1 学年	1 4 4 名	4 4 名
第 2 学年	1 1 9 名	
第 3 学年	1 6 9 名	

校舎	昭和51年建設	※平成17年耐震補強工事
○登校時刻	午前8時 5分	～ 8時25分
○下校時刻	午後4時	～
○昇降口	南昇降口2、3年生	西昇降口1年生
○登下校時の環境	・校舎西門から登下校 ・北門は緊急時のみ	

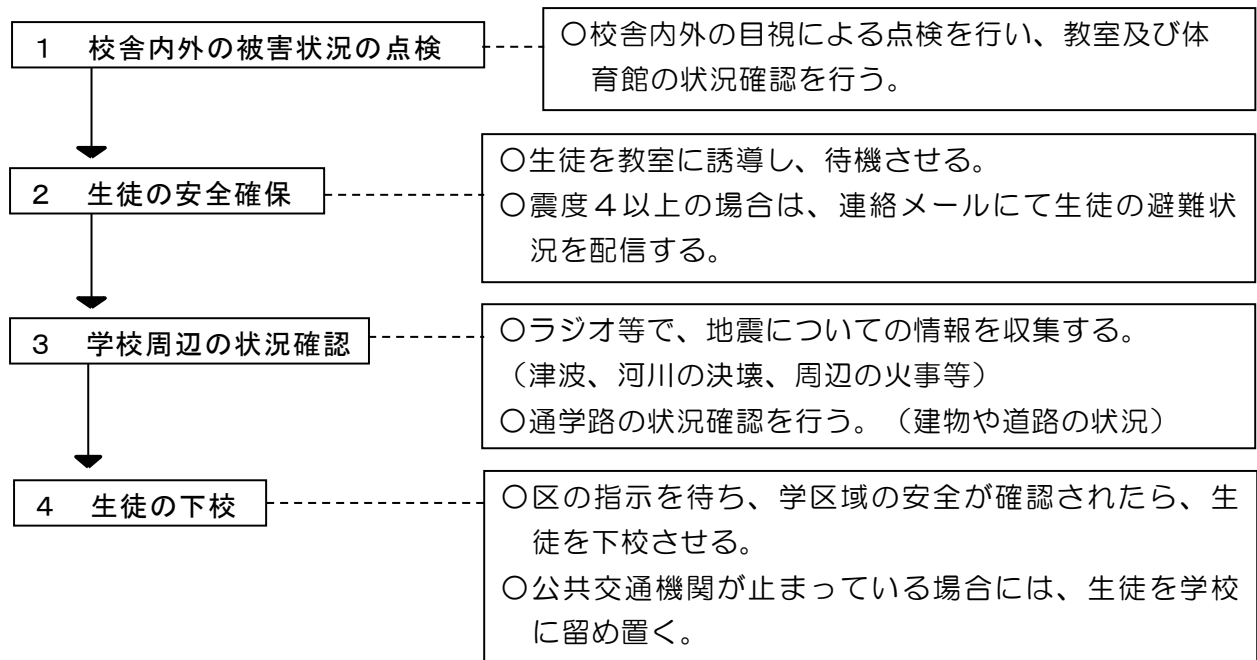
学校の立地環境

- 学校の立地
 - ・海抜 0m（江戸川区ハザードマップにより津波浸水被害）
 - ・交通 校舎の西側に篠崎街道（京成バスの停留所あり）
- 自然的環境
 - ・校舎の東600mに旧江戸川が流れている。
 - ・校舎の東側 徒歩 18分のところに都営新宿線 篠崎駅
- 社会的環境
 - ・学区全体的に集合住宅が多い。しかし、ここ数年は戸建ても増加傾向にある。
 - ・学区の南側は昔からの商店街がある。
 - ・学区の北側には、都立篠崎高校、江戸川スポーツランドなど公共の施設が多く存在する。

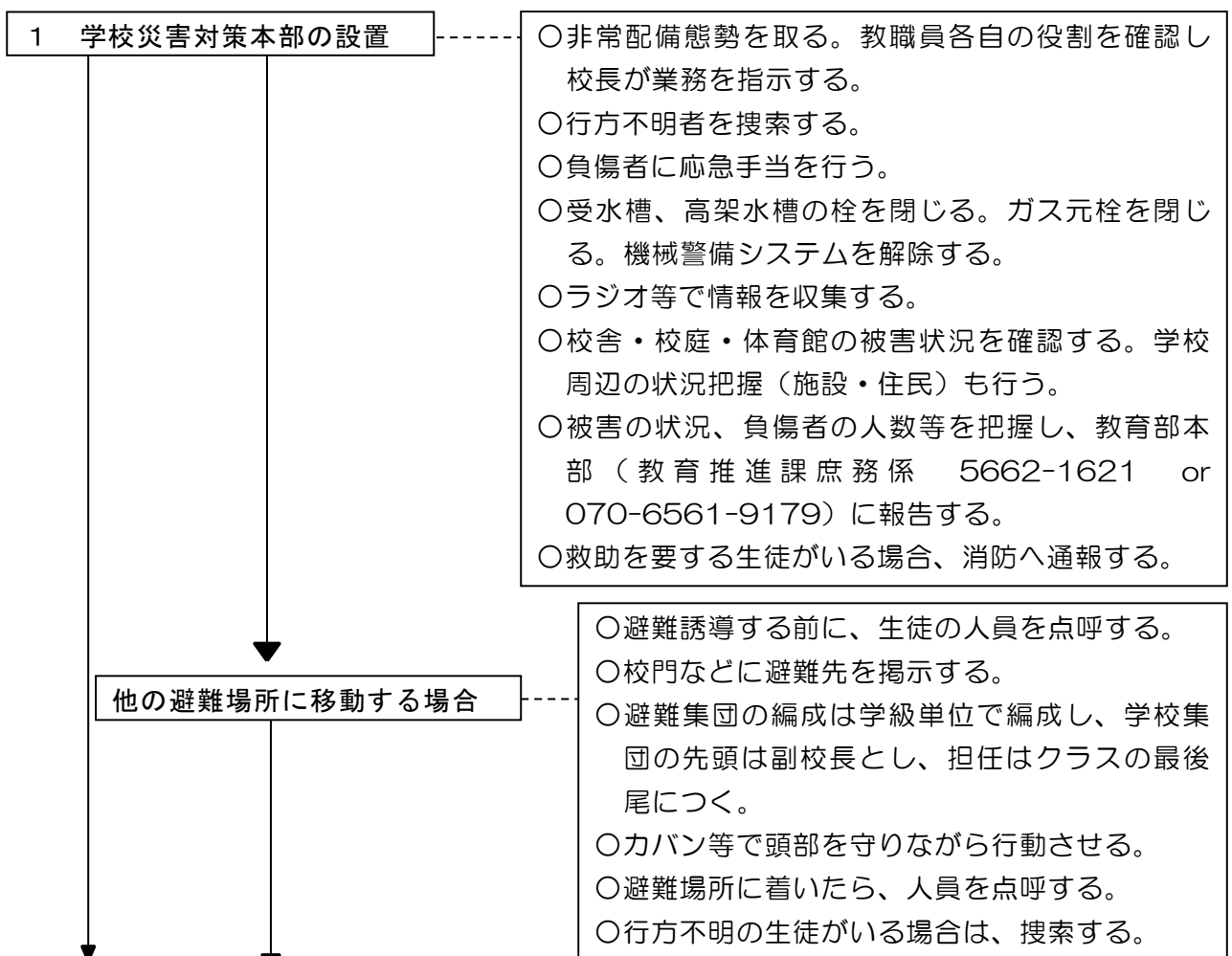
(4) 教職員在校時に発災した場合の対応

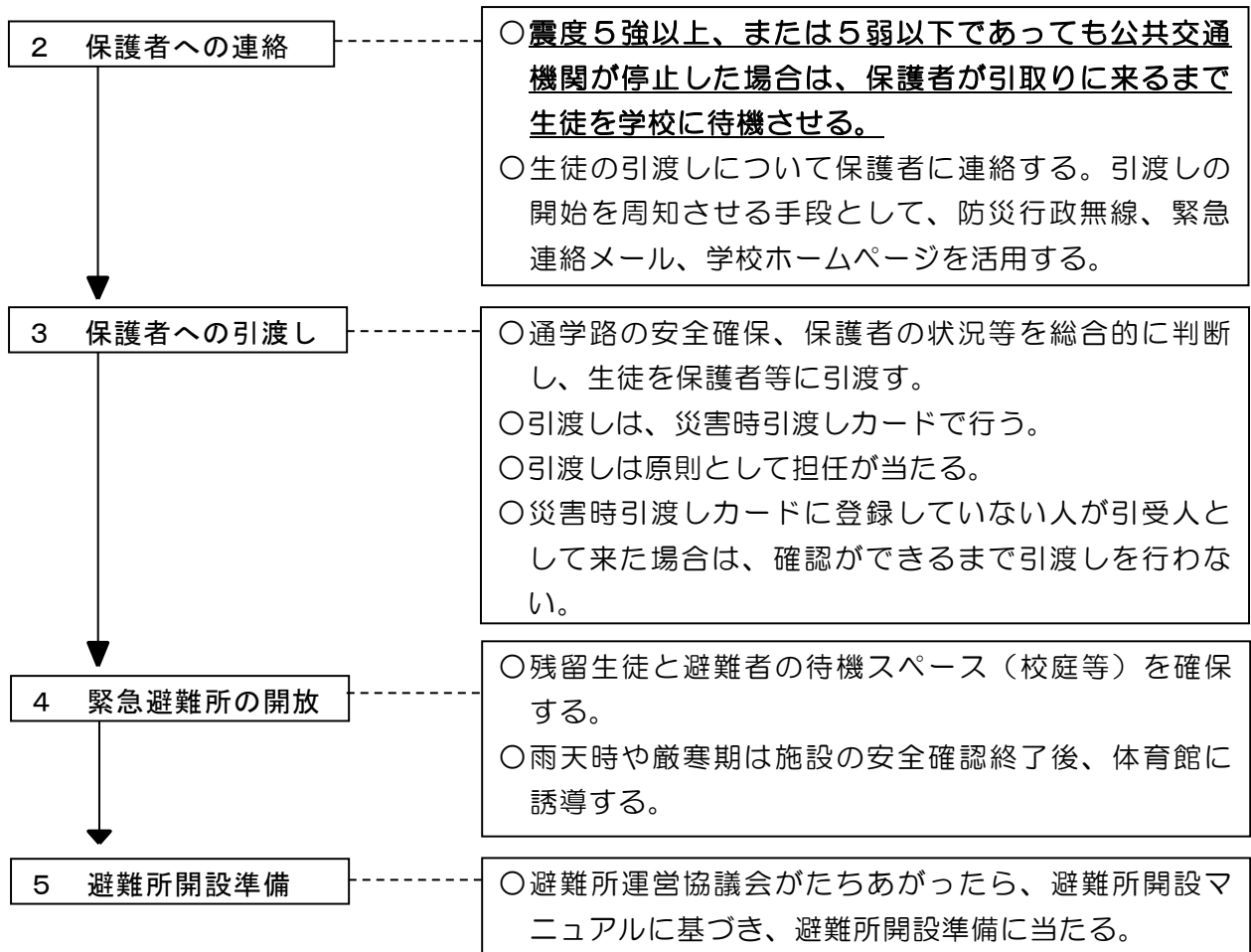


ア：震度5弱（「不安定なものが倒れることがある」程度）以下の場合

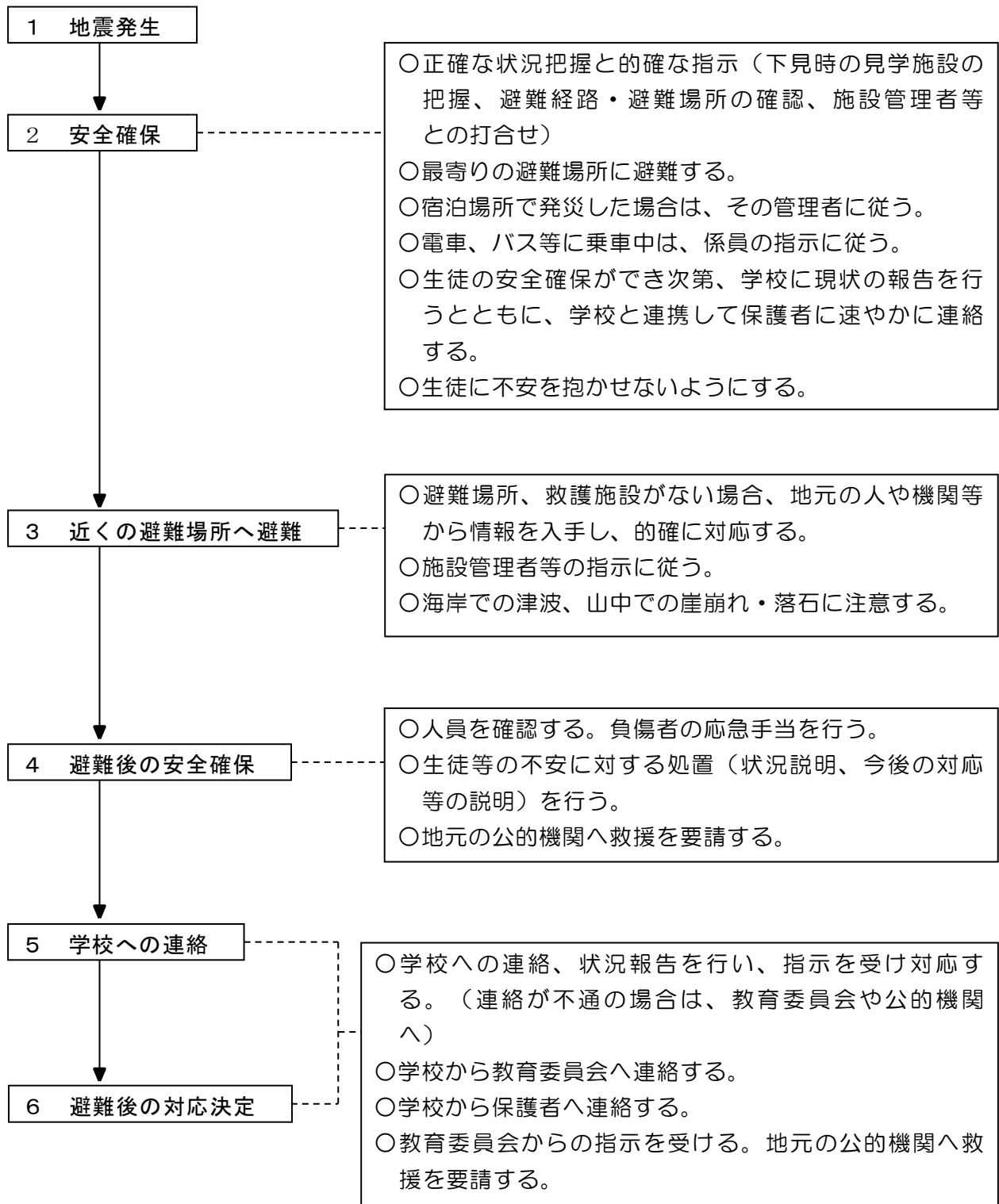


イ：震度5強（「固定していない家具が倒れることがある」程度）以上の場合

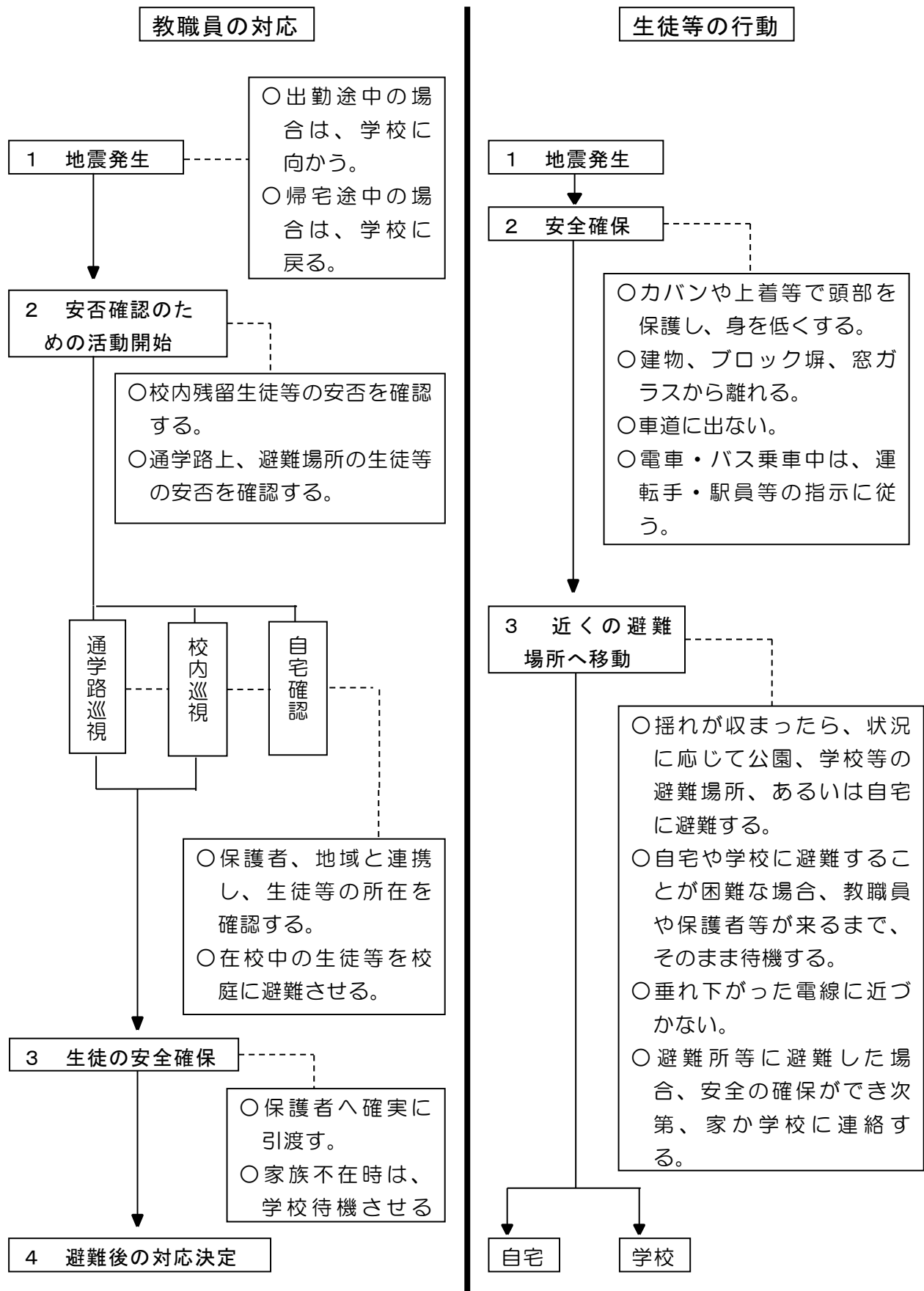




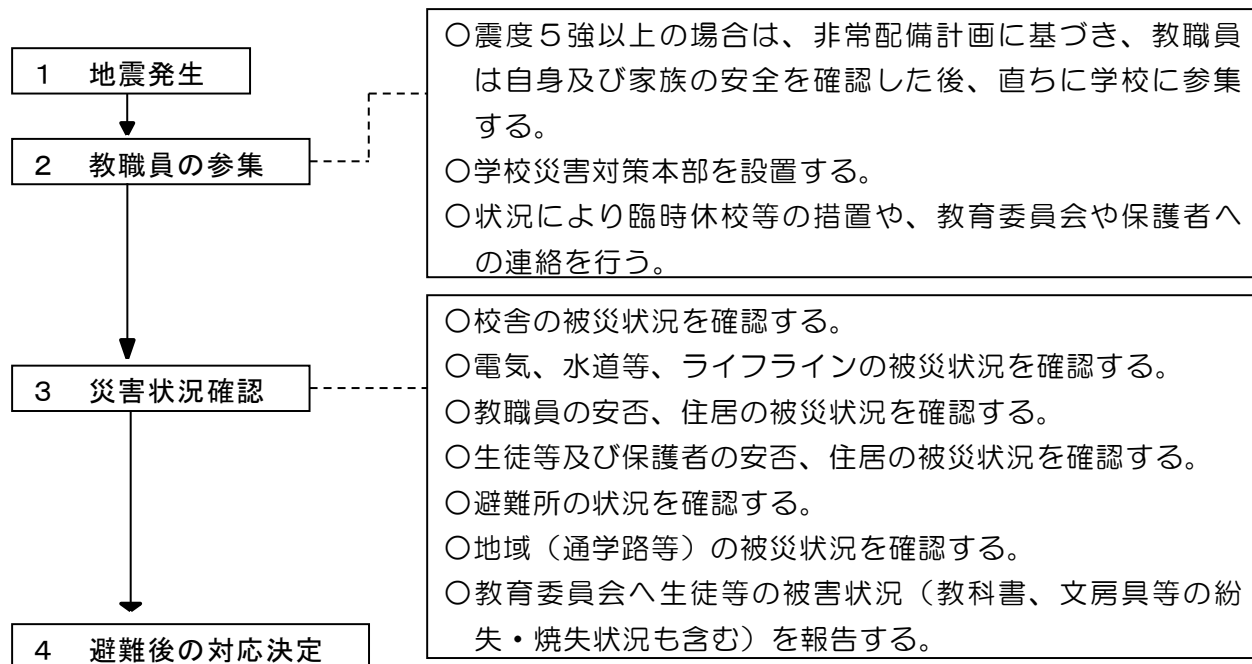
(5) 校外活動中に発災した場合の対応



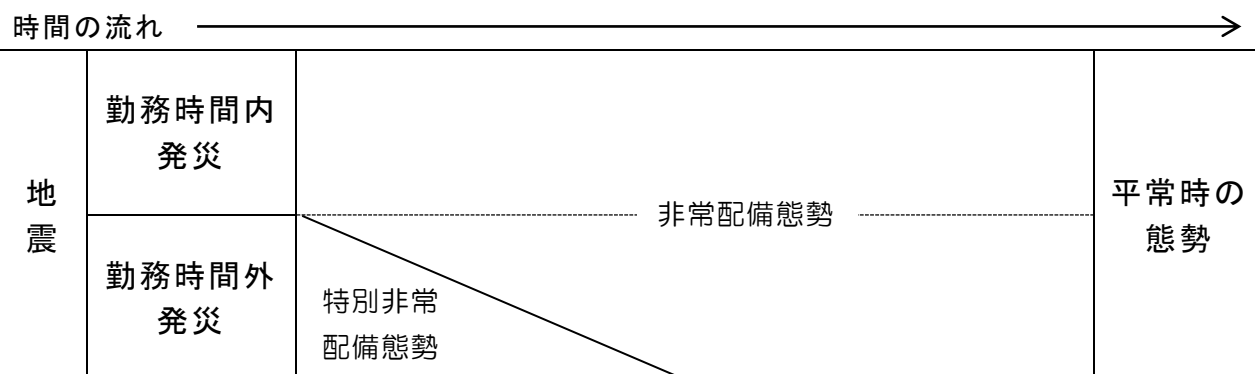
(6) 登下校時に発災した場合の対応



(7) 教職員在校時外の対応



(8) 学校教職員非常配備計画



震度5強以上で、災害対策本部を設置する。以下のような非常配備態勢を取る。

◎ 非常配備態勢（勤務時間内） … 通常業務を縮小（停止）し、応急業務体制に移行

〔1〕 生徒・職員の安否確認及び保護者への引渡し

- ① 在校する生徒の安全確保
- ② 外出している生徒の安全確保
- ③ 教職員の安全確保
- ④ 保護者への引渡し連絡

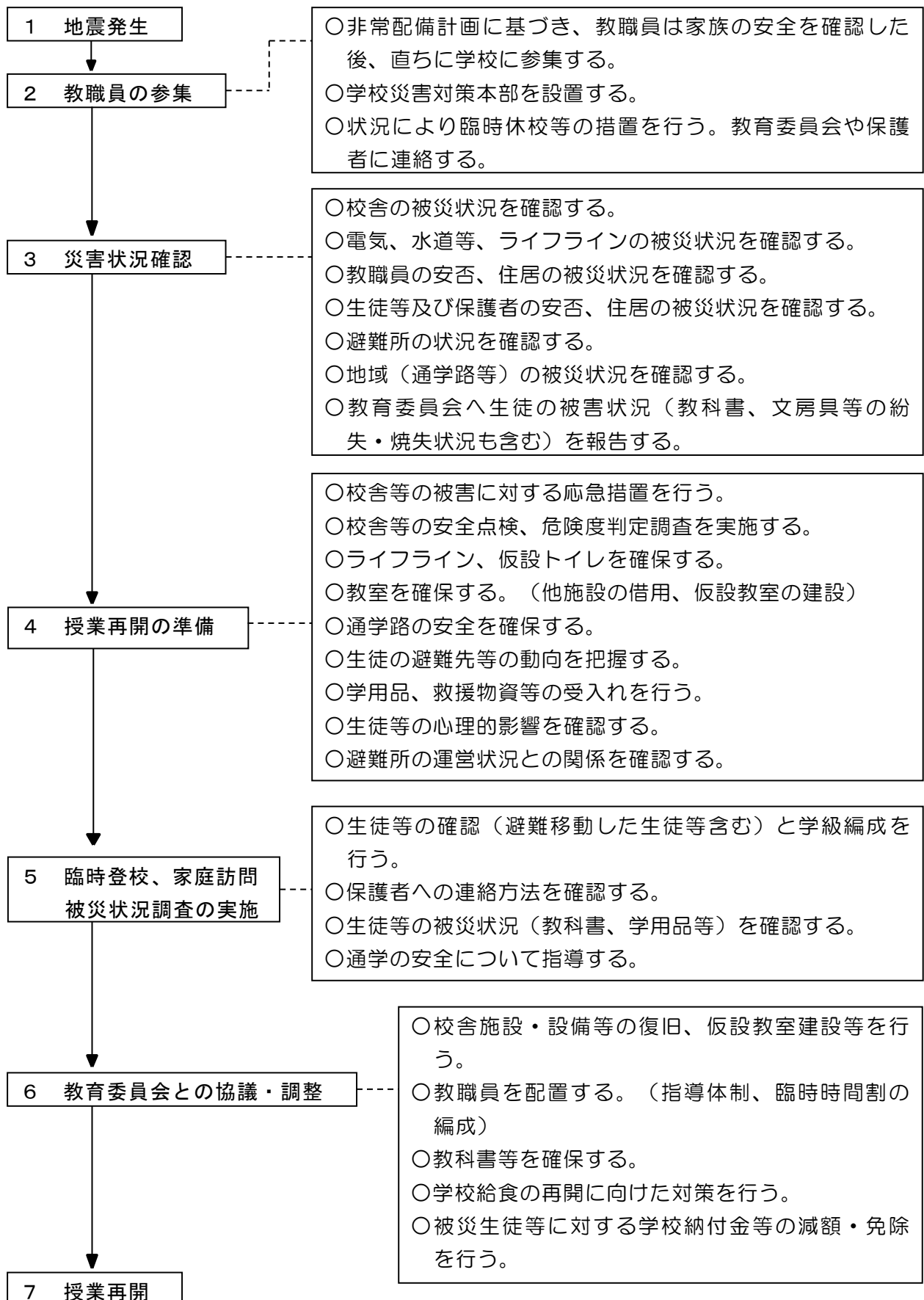
〔2〕 被害状況の確認

- ① 受水槽及び高架水槽のバルブを閉栓
- ② 建物および施設周辺の状況確認
- ③ ガス、電気等ライフラインの状況確認

◎ 特別非常配備態勢時は、自主参集し、避難所の設置及び運営に協力

* 避難所開設・運営については、災害対応マニュアル（避難所開設）参照

(9) 授業再開に向けた対応マニュアル



(10) 警戒宣言発令時の対応

1 注意情報発令時の対応

- (1) 教育委員会は、注意情報発令の連絡を受けたときは、小・中学校に連絡する。
- (2) 学校は、授業を学級活動・ホームルーム活動に切り替え、児童・生徒に注意情報が発令された旨を伝える。
- (3) 地震に対する注意事項、警戒宣言が発令された場合の対応措置を指導する。

2 警戒宣言が発せられた場合の措置

(1) 在校時

- ア 授業を打ち切り、警戒宣言が解除されるまで臨時休業とする。
- イ 児童・生徒は校内で保護する。

(2) 校外活動時

- ア 宿泊を伴う校外活動時は、その地の災害対策本部の指示に従うとともに、速やかに学校に連絡する。
- イ 校長は、情報を保護者に連絡する。
- ウ 学校の対応状況を区教育委員会に報告する。
- エ 日帰りの遠足等の場合は、その地の警察、消防等官公署と連絡を取り、状況に応じて即時帰校等の措置をとる。
- オ 交通機関の運行や道路状況によって帰校することが危険と判断された場合は、近くの小学校、中学校に避難するなど適宜必要な措置をとる。
- カ 校外活動が強化地域内の場合は、その地の区市町村と連絡をとり、その地の警戒本部の指示に従う。

(3) 登下校時に警戒宣言が発せられた場合

- ア 登下校時に警戒宣言が発せられた場合、生徒は学校や家庭までかかる時間などを考慮し、適切に避難する。
 - ※ 特に教職員の目が届きにくい登下校時には、児童・生徒一人一人が最も安全と考えられる対応ができるよう、日頃から柔軟に対応することの重要性を指導しておく。

(4) その他の対策

- ア 飲料水、食糧、毛布等を生徒のために準備する。
- イ 生徒に対して、今後の対応を指示、説明する。
- ウ 保護した生徒の人数、保護体制について、教育委員会に報告する。

(5) 警戒解除宣言の情報収集

学校は、警戒解除宣言の情報を、区災害対策本部、ラジオ、テレビ等から入手する。

(11) 落雷の対応について

太平洋側の地域では、4月から9月までの間に落雷が起こる可能性が高い季節となる。厚い黒雲が頭上に上がった際や、落雷の危険性、警報や注意報等の発令があった場合は落雷の危険性がある。その場合は、天候の急変に対応するための計画の変更、中止をためらわず行う。また、雷鳴が聞こえた際には、以下の対応を行う。

○すべての活動を中止し、すぐに安全な場所（鉄筋コンクリートの建物、室内、屋根付きの乗り物等）に避難する、よう誘導する。

○木や電柱から4 m以上離れさせる。

○近くに避難する場所が無い場合は、姿勢を低くする。

(12) 風水害の対応について

台風が接近すれば警戒を強める。河川や下水道に大量の水が流れ込むことによる河川の氾濫や下水道管からの雨水吹き出しなど都市型水害に対して適切な対応をしていく。大雨特別警報または暴風特別警報、大雨警報と暴風警報の両方が発令された場合、学校は臨時休校とする。また、学校は警報が発令している場合には、自主避難所の提供を行う場合もある。

(13) 主要連絡先一覧

① 公的機関

区教委指導室	5 6 6 2 - 1 6 3 4
小松川警察署	5 6 6 4 - 0 1 1 0
小岩 消防署	3 6 7 7 - 0 1 1 9
小岩 消防署 篠崎出張所	3 6 7 8 - 0 1 1 9

② 医療機関

タムス総合クリニック篠崎駅前店	5 6 6 1 - 1 3 3 1
-----------------	-------------------

③ 学区内避難所

一次避難所	篠崎第二中学校	3 6 7 7 - 9 5 3 1
	篠崎第三小学校	3 6 7 9 - 0 0 0 5

地域拠点	東部事務所	3 6 7 9 - 1 1 2 3
------	-------	-------------------

食品等集積地	西葛西備蓄倉庫
	葛西防災施設
	大島・小松川公園備蓄倉庫
	小松川防災施設

緊急医療救護所	江戸川病院前
	東京さくら病院前
	江戸川共済病院前
	岩井整形外科病院前

◎ 留意事項

0. 平常時

- (1) 出席簿の表紙の裏に、在籍数を記入した「確認票」を常備しておく。
- (2) 毎日、職員室前の「生徒出欠表」に始業時の出欠状況や、遅刻・早退の状況を記入しておく。

■授業中（教員が指導しているとき）… 教員は生徒に適切な指示を与え、避難させる。

1. 避難前

- (1) 緊急放送を良く聞き、避難経路を判断する。
- (2) 「窓をしめ、カーテンを束ねる（開ける）。扉をしめ、電気を消す。」ことを指示する。
- (3) 生徒を廊下に出し、2列に並ばせる。

2. 避難中

- (1) 火事が発生している場合は、ハンカチを口に当て、姿勢を低くし、「お（おさない）、か（かけない）、し（しゃべらない）、も（もどらない）」を守らせて移動させる。
- (2) 階段を降りるときは、上の階のクラスが内側、下の階のクラスが外側を歩く。
（待たせない）

3. 人員確認

- (1) 校舎を背にして、クラスごとに出席番号順に並ばせる。
- (2) 担任（教科担任）が点呼を行い、その場に座らせる。
- (3) 担任（教科担任）は、確認票に不在生徒の数と名前を書いて副校長に報告する。
「〇年〇組、在籍〇名、欠席〇名、現員〇名、異常なし・あり（〇〇が不明）」
* 「欠席」とは、その時点での不在生徒のこと。（早退・遅刻・出席停止・忌引等を含む）
＜避難完了＞
- (4) 担任がクラスにつく。

■休み時間等（教員が指導していないとき）… 生徒は自主的に判断して、避難を行う。

1. 避難前

- (1) 緊急放送を良く聞き、避難経路を判断する。
- (2) 近くの窓をしめ、カーテンを束ねる（開ける）。扉をしめ、電気を消す。

2. 避難中

- (1) 火事が発生している場合は、ハンカチを口に当て、姿勢を低くし、「お（おさない）、か（かけない）、し（しゃべらない）、も（もどらない）」を守って、安全な避難経路を通して移動する。

3. 人員確認

- (1) 校舎を背にして、クラスごとに出席番号順に並ぶ。
- (2) 教員の指示に従って、待機する。

4. 津波の恐れがあるとき

- (1) 全校生徒および職員は屋上に避難する。
- (2) 生徒の混乱を避けるため、避難口を2カ所設置し、動線を確保する。
- (3) 校舎外にいる場合は、速やかに避難経路を通して屋上に避難するよう指示する。